資料３－１

都市を中心とした地域の状況について（論点）

＜ポイント＞

I.　都市を中心とした生活の状況

・*都市の昼夜間人口比* について、近年東京都区部の比率も逓減し、都市圏の規模に拘わらず中心都市の昼夜間人口比を平均すれば１程度。

・*都市圏における人口増減* については多様であるが、中心への人口移動がみられ郊外への開発圧力は減少傾向にある。

・*通勤・通学* に関しては、鉄道の輸送力増強、輸送人員の減少が相まって平均混雑率が低下傾向にある。

・通勤時間の減少分を他に振り分けることができる*テレワーク* について、人口比率は大都市圏で高く、また、主婦や高齢者の実施への意識は良好。

・都市機能の集積状況に関して、*医療機関* はその規模に応じて患者の選択理由が異なり、また、診療所から病院に対する紹介が増える等、医療提供体制は地域における役割分担・連携がなされる。

・*進学* に関して、ブロックの拠点となる都市には教育機関が集積がありブロック内での学生の吸引力がある一方で、進学を機に東京への流出は多い。

・*商圏* に関して、自動車利用率の上昇、消費者ニーズの多様化等により広域化、かつ重層化している。また、買物施設業態に応じた利用理由は異なり、百貨店のニーズが低下している。

・*住宅* については、価格は安定、一人当たり面積が着実に増加し、バリアフリー対策、省エネルギー対策は着実に進捗。

II.　都市の課題

・*密集市街地* が全国に存在し、地震等により甚大な被害が生じるおそれがある。

・*水害* が近年増加の傾向にあり、洪水ハザードマップの作成が進むが、住民の認知は低い。

・*犯罪* が急増し、検挙率が低下している。犯罪の内訳には地域差があり、各地で個性ある安全マップづくりが進む。

・*交通事故* に関しては、近年減少傾向。歩行者の不満や困っていることは大都市で多い。

・*既存マンション* の建替え等が課題。

・*低未利用地* が中心市街地、臨海部地域で増加。

・全国各地で*都市再生プロジェクト* が進展。*オフィス床* の大量供給により、既存ビルの*用途転換* が注目される。

・地方都市は、中心市街地や*商店街の活性化に多くの課題* を抱える。

・都市の地表面被覆の人工化、人口排熱等により*ヒートアイランド* 現象が顕著になっており、対策が求められる。

・大都市圏では、保育所の定員が不足し待機児童の問題が解消されない。

・大規模建築物、交通ターミナルにおいては、バリアフリー対策が促進される。

III. 多様な主体による個性あるまちづくり

・景観への関心の高まりから、*景観条例* の策定数が増加。景観形成について、*多様な主体* により様々な取組が展開。

・自分が住む都市への誇りを持つ人は、地域活動へも参加。

・多様な主体によるまちづくりへの取組も様々。ＮＰＯの都市圏の規模による活動状況をみると、ＮＰＯの活動目的に応じて分布に特徴。

・地域発展に活用が期待される*地域資源としての文化財* 等については、特徴的に分布。

・*内なる国際化* について、大都市圏以外にも外国人従業者、研修者の多い地域が存在。全国的に留学生が増加。外国人からは就労に対する支援施策に期待。

IV. エネルギー

・CO_2排出量の削減のため、原子力とともに*太陽光発電等の新エネルギーの積極的な導入*が目指される。特に太陽光と風力発電が近年急速に増加してきている。また、燃料電池についても技術の進歩とともに、注目を集めている。

＜ 論 点 ＞

・現在の「Ⅰ.都市を中心とした生活の状況」、「Ⅱ.都市の課題」に関して重視すべき点は何か。

・上記の論点に限らず、前回までの社会経済情勢の変化等に関する議論を踏まえて、今後都市を中心とした地域の課題として重視されるべき点は何か。その際、都市の規模に応じて求められる役割は何か。

① 人口減少下の人口分布、高齢化の進展、地域の自立の進展

② 自由時間、社会参加機会の増大等のライフスタイルの変化

③ 産業を支えるインフラ

・「Ⅲ. 多様な主体による個性あるまちづくり」を推進する上での課題として重視されるべき点は何か。また、いかに促進されるべきか。

・生活の持続、都市を中心とした地域づくりに関して、国土計画に求められる役割は何か。

・高齢者を中心とする潜在的な地方圏の町村への居住選好について、実現する上での課題は何か。また、どのような取組みが考えられるか。